

human

No262

2014/2

医療を通じて人と人とのふれあいを広めるために
ヒューマン(人)と名付けました。



「干支の置物(午年)」

救急指定・労災指定病院	さくら総合病院	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129 (0587)95-6711(代)
老人保健施設	さくら荘	愛知県丹羽郡大口町新宮1-96 (0587)95-6722
訪問看護ステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129 (0587)95-8623
ヘルパーステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129 (0587)95-8026
居宅介護支援事業所	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8027
デイケアセンター	御 嶽	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F) (0587)95-8900
有料老人ホーム	太郎と花子	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10 (0587)95-0111



<http://www.ijinkai.or.jp>

E-mail: info@ijinkai.or.jp

わがグルメ放浪記

大森澄雄

一、うなぎ

幼少年時代の私が超虚弱児童であったことは、一昨年の『ヒューマン』に載せてもらった「わが闘争ーマヒとの戦い」の中に記したので、記憶にある方もおられることであろう。

父や母はもちろんのこと、祖父までもが氣遣ってくれた。中でも祖父は、毎月三回ある五日日には、朝御飯の時に「澄雄、今日は元氣か。古知野(江南)へ行かんか」と誘ってくれた。母も私の顔を見ながら「うなぎが食べられるよ」と勧めてくれた。五日日には、古知野の本町通で市が立ち、多くの店が並んだ。古知野まで行くのに、いつも布袋駅まで二

人で歩いた。私が疲れたという、祖父はすぐに休んでくれた。何回も何回も休んだが、時には「遅れるとうなぎがなくなるよ」と急かせることもあった。古知野駅に着くのは、大体昼前で直ぐうなぎの清水屋に直行した。現在では立派な店舗を構えている清水屋は、当時露店商であった。テントを張った店の中で、うなぎを食べさせてくれた。胃腸の弱い祖父はうなぎは食べず、吸い物とご飯を食べながら「澄雄、旨いか」と尋ねたりした。もちろん美味しかった。私はただひたすら黙々とうなぎを食べた。食べ終わるといつも、新町通にあった脇田という株の取次店に行った。私が静かにしていると、年取った女の人

が「お利口な坊ちゃん」といいながら、当時としては珍しい菓子や果物等を出してくれられた。これが私の古知野行の第二の楽しみであった。帰りは、来た時の道を来た時とは反対にたどった。しかし、来た時とは違って布袋駅から自宅まで、森(注・現愛北)タクシーで帰るのが常であった。それが私の古知野行きの第三の楽しみであった。約二キロのタクシー代金は七十銭であった。戦争が始まって間もなく一円に上がり、戦争が激しくなるにつれて五日の古知野の市も姿を消してしまった。

清水屋が立派な店舗を構えたのを知ったのは、昭和四十年代に入ってからであった。昭和三十年代の初め大学を卒業した私は、教師として常滑高校に赴任した。同僚の一人が町にうなぎの美味しい店があるといって連れて行ってくれたのが、同じ店名の清水屋であった。もちろん美味しかっ

た。たれの味が極めて似ているのに驚いてしまった。その同僚に浜松にも清水屋があるというので、東京に職を得てから訪れてみると、生憎定休日であった。こんな失敗談を東京の同僚にすると、東京にも京橋に竹葉という美味しい店があるといって連れて行ってくれた。たれに格別の個性はなかったが、美味しかった。酒の中にも、個性が強く、酒好きが好む酒と、個性は弱いが、御馳走を引き立て、料理好きの好む酒とがあることを考えながら賞味した。暫く経って丸の内に竹葉の支店のあることがわかった。急いで帰宅する必要のない時には、そこでうなぎを食べながら新幹線に乗るのが習わしとなった。

仕事上俳句を作る必要に迫られた私は、京都に行くようになったが、既に何回も行って、特に関心のあったのは嵯峨野であった。しかも、早春か晩秋の嵯峨野が格別好きで

あった。

竹林やところどころに

梅の花

落葉舞ふ落柿舎前の

二枚の田

前の句は、作り始めて二カ月ぐらい経ってからの句。後の句は、一年近く経ってから作った句で、落柿舎の前に五枚位田があったが、二枚の田のみで落葉が舞っていた。それが不思議であった。

嵯峨野に行つてよく寄つたのが、天龍寺の前にある広川であった。たれもよく、うなぎもよく締つていた。店も新築で主人は若く、大変なやり手だなあと訪れる度に思った。

京都七条通、三十三間堂の近くに、わらし屋という店のあることを知つたのは、このころのことであった。近くにある三十三間堂、国立京都博物館、智積院等には、何回も行ったが、店に入ったことはなかった。

名前の由来は、秀吉がわらしを脱いで上がったことにあ

る。しかし、彼がわらしを穿いていたのは足軽時代までのことである。しかも、上つたのは天下人となつてからのことであろう。とすれば、駕から降り、立派な草履を脱いで上つた筈である。それを、わらしやと付けたのは、何と馴染みやすい店名にしたことか。草履屋では味気ない。私はそう勝手に理解して、店名の由来を教えてくれた京都の友人を誘つて早速店に上がった。

出されたうなぎ雑炊(注・うなぎの雑炊)は、薄い塩味で米粒も白いが、かゆらしいやわらかさがなく、かゆではない。が、といつて醤油味が一般の雑炊とも少し異なる。うなぎは素焼きして細かく刻んだものが、申訳程度に入っている。カニすきなどの時に、その汁の風味を利用して作る雑炊にやや似たところがある。とにかく食はよく進んだ。

琵琶湖の最北端の湖岸に、戦前陸の孤島といわれた菅の浦という集落がある。この

宿ではうなぎのすき焼きを出してくれる。脂はよく抜いてあるが、長時間かけてゆつくと食べるわけにはいかない。一緒に行った仲間は、二組に分かれて二つのテーブルに向かったが、議論好きなたちのテーブルのすき焼きは焦げ始めてしまった。うなぎの脂は大したものので臭いもきついし、味も変わってしまう。適宜に食べれば美味しいが、ゆつくと食べるのでできないのが難である。

私が特に好きなのは、京阪四条駅近くのかね庄の茶漬けうなぎである。これはピリといわれる三十センチ足らずの小うなぎを開いて、醤油で二三時間煮詰めたもので、香ばしく大変美味しい。ノーベル賞受賞作家川端康成も、京都に来る度を買つて帰つていたようである。

他に、京都には(八幡巻といふ)細めのごぼうを五、六本たばねてしんにし、(これにあまり大きくないうなぎを焼

いてとめ)、(タレをつけ焼き上げ)たものだが、私はまだ食べたことがない。

因みに、うなぎは古くから栄養剤として食べられていた。奈良時代に選ばれた万葉集の中に選者の大伴家持と石麻呂の取り交わした歌が入っている。

石麻呂にあれもの申す夏瘦によしといふものぞ武奈伎とりめせ

返し

瘦やすも生けらばあらんをはたやはた(注・「万」の意味)武奈伎をとると河に流るな

参考文献

臼井喜之介著『京の味十

二か月』

(実業之日本社刊)

注・()内は右の文献から引用したものである。

時代の進化と代償

リハビリテーション科 理学療法士 文堂 祐一郎

IT化の進行は医療分野においても例外ではない。医療現場では、患者の個人情報、投薬情報、CT、MRIなどの画像情報と、日々扱われる情報量は非常に膨大である。紙、フィルムによる保存だけではコストがかかり、情報も点在したままで効率的な利用もされない。近年電子カルテに代表されるように、ネットワークを利用して電子媒体に診療録を保存することが進められている。

また情報化の進展は、人間社会にコミュニケーションの発達をもたらすものである。コミュニケーションとは、人間同士が相互に意志を疎通させることであるから、情報化の進展は、人々に、地理的・空間的距離を越えて、相互の一体感を作り出してゆくものである。

1995年1月17日の阪神大震災の直後、被災地において、停電のためにテレビ・ラジオも視聴することができなくなった時、人々は口から口へと、「口コミ」で情報を伝えていったことが知られている。その日一日、見ず知らずの人と言葉を交わした回数は百人を超えたと語っていた人もいた。「この道は倒壊した家でふさがれて通れませんよ」「この先で水が出てますよ」「小学校で炊出しをしますよ」。このような会話である。そして、それが非常に役に立ったともいう。

通りで行き会う人に誰彼となく言葉をかけるなどということは、昨日までは考えられなかったことだった。しかし、みんな、言葉をかけずにはいられぬ気持ちになっていったという。そこには、お互いに親近感があり一体感があり連帯感があったという。

このような「口コミ」、それは情報交換の最も原始的形態である。そして、そのような「Face to Face」の原始的情報交換形式の中に、人々はお互いに親近感と一体感を抱きあったという事実がある。

しかし、振り返ってみると、情報手段が溢れかえる程の情報化社会の中では、人は人と会話することなく情報を得て、それぞれに生活することができる。何かを学習しようと思えば、図書館やインターネット学習に頼り、先生に直接接して教えるを乞うことを要しない。市役所からは「お知らせ」も来る。近所の人と顔を合わせる必要はない。「人間嫌い」であるならば、孤独な貝のように存在することもできる。しかし、そこにはもう、人と人との間の温かい心のつながりはない。情報化社会は、このような孤独を可能にする。すなわち、情報化社会は必ずしも人を一体化し親近化し連帯化するとは言えない。むしろ、その逆をも可能にするものである。

当院も平成19年より電子カルテシステムを導入し、本年1月には新しいシステムの運用を開始し医療サービスの効率化、現代化を図っている。今後は、被災地で生まれた連帯感を教訓に、患者さんと職員のコミュニケーション、職員間のコミュニケーションにおいて、人と人との温かい心のつながりのある接し方に努めていくことが不可欠である。

♡ チョコレート ♡

..... 栄養科 藤川 奈々

2月14日はバレンタインデーです。世界的に男女の愛の誓いの日とされていますが、その起源は269年にローマ皇帝の迫害下で殉教した聖バレンティヌス(バレンタイン)に由来する記念日であるとされています。バレンタインデーの習慣は国によって異なり、男性から女性へ贈る・互いに贈りあう国もあります。日本では1958年頃から流行したとされており、女性から男性へ贈る・贈る物の多くがチョコレートに限定されている点が日本のバレンタインデーの特徴です。そのため、バレンタインデーにプレゼントを貰った男性が女性へお返しをするホワイトデーは日本で生まれた習慣のようです。また、近年では友人や同僚に贈る「友チョコ」や自分へのご褒美として購入する「自分チョコ」なども多いようです。時代が進むにつれてバレンタインの形も変化していますね。

さて、みなさんはチョコレートをどのくらい食べていますか?チョコレートは糖質や脂質が多く、エネルギーが高いことで敬遠している方もみえるのではないのでしょうか。チョコレートも食べ方によっては健康に役立つ食べ物で、カルシウム・マグネシウム・鉄・亜鉛などのミネラル類や食物繊維を豊富に含むバランスのとれた食品です。また、チョコレートの原料であるカカオには「カカオ・ポリフェノール」が含まれており、動脈硬化・癌の予防、ストレスやアレルギーに対しても効果があるとされています。その他にも糖質の吸収が速いため、お腹が空いた時に一粒食べるだけですぐエネルギーになり集中力の増加をもたらす効果もあります。とはいえ、糖質・脂質が多いことには変わりありません。商品にもよりますが、板チョコ1枚(70g)で約400kcalあり、ご飯に換算すると約1杯半のエネルギー量です。板チョコ1~2かけら、チロルチョコ1個を1日の目安量にしてみてください。食べ物は薬にも毒にもなります。食べ過ぎに注意し、上手に食生活に取り入れてみてはいかがでしょうか。

ポエム

さくら総合福祉センター さくら荘 2Fケアスタッフ 倉知 利佳

私は物語を書く事が好きで、時間があると童話や詩を書いています。
今回humanに載せて頂けるという事で、大変嬉しく思っています。
今回は詩を掲載させていただきます。

「勇気」

追いかけた青いメモリー
その向こうに君がいたよ
いつまでもピュアな心のままで
夢のメロディー伝えるために
信じる勇気、愛する勇気
夢見る勇気、それが力
心の想いが大切な世界を守る

「大きな愛」

いつか青い空には白い風がわたって
子供達の笑い声いっぱい
あふれるでしょう
緑光大地に鳥は高く歌って
新しい生命いくたび
海は育むでしょう
小さな時の記念樹二人で
植えていきましょう
もう一度守りたい願い事叶うよう
この扉 愛に包まれますように

第32回 「健康を守る教室」

テーマ：『生活習慣病～日ごろのおこないを改善してみよう～』
&セラバンドを使用した体操

日時：平成26年2月15日 土曜日
13:00～14:00 (受付12:30～)

場所：コンドル館1F ロビー

講師：循環器内科 松崎照正医師

参加料：無料

お問合わせ：受付窓口もしくは医療連携室
Tel 0587-95-0015



近年、生活習慣病という言葉をよく聞きます。よく、外来受診の際も日ごろのおこないを見直していただくようにと話をされます。

さて日ごろのおこないでどんなことが、どのような病気に影響するのか。意外と曖昧なことが多いと思います。今回は、循環器内科の医師により日ごろのおこないと病気の関係性をお話ししてもらいます。皆様お誘い合わせの上是非ご参加ください。

※健康を守る教室の体操コーナーでおなじみのセラバンドを健康教室終了後に下記価格で販売をいたします。
ご希望の方はお申し出下さい。 黄色(弱)400円 緑色(中)460円 青色(強)520円

診療科表

平成26年2月1日現在

	午 前 9:00~12:00										午 後 5:00~7:30											
	消化器病 外傷 センター	脳神経 外科 センター	運動器 形成 センター	脳卒中 脊椎 センター	神経 糖尿病 感染症 センター	脳神経 外科 センター	小児科 女性疾患 センター	皮膚病 センター	耳鼻 咽喉 センター	腎・尿 路疾 患 センター	眼 の疾 患 センター	消化器病 外傷 センター	脳神経 外科 センター	運動器 形成 センター	脳卒中 脊椎 センター	神経 糖尿病 感染症 センター	脳神経 外科 センター	小児科 女性疾患 センター	皮膚病 センター	耳鼻 咽喉 センター	腎・尿 路疾 患 センター	眼 の疾 患 センター
月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
土	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

- ※1 休診日あり ※2 祝日診療あり(9:00~11:00)
- ※3 外傷センターにて診療
- 診療時間は、診療科目により異なります
- ご不明な点がある場合は、職員にご確認ください
- 診療日が変わる場合があります ご了承ください

機関紙 発行 医療法人 医仁会 電話 0587(95)6711(代)
 human ヒューマン さくら総合病院 発行年月日 2014年2月1日
 No.262 発行部数 350部
 丹羽郡大口町新宮1:129